



よもやま話に花が咲く。えきんぐらがお届けする小ネタ袋。

蔵通信 二一号

2010.2

発行：絵金蔵運営委員会
発行日：2010年2月1日
〒781-5310
高知県香南市赤岡町538
Tel.Fax 0887-57-7117
ekingura@mxi.netwave.or.jp
http://www.ekingura.com/

シリーズ
絵金百話
第二十話 夫か、父か！



2010.2 鳩山首相来訪



去る2月27日、地方の実情を視察するため、首相就任後初めて来高した鳩山首相が香南市を訪れ、赤岡成果市場や絵金蔵、弁天座、赤岡の商店街などを廻りました。弁天座では赤岡の名物おばばだった故・横矢登志さんと首相そっくりの人形がお出迎え。商店街ではたくさんの人に囲まれながら雑貨店「おっこう屋」で渡された鳩笛を吹き、赤岡パワーを肌で感じられたご様子でした。

「地方を巡り、厳しい経済状況のなかで頑張っている姿を拝見した。…本当に地域の皆さんが幸せになれる施策に取り組んでいく。」—訪問を終えた首相の言葉です。

絵金屏風修復・保存活動へ —ご寄附のお願い—

赤岡に残る絵金の屏風絵23点は、幕末より祭礼文化とともに地域の所蔵家の手によって伝えられてきました。平成17年からは絵金蔵の収蔵庫に保管されていますが、約150年の時を経て、絵の具の剥落を中心とする傷みがあちこちに見られるようになってきました。

現在、赤岡では従来それぞれ活動していた4地区と個人の所蔵家がひとつになり「赤岡絵金屏風保存会」を立ち上げ、絵金蔵運営委員会とともに屏風絵とそれを飾る祭礼文化をより長く後世に伝えていくためのさまざまな活動を行っています。

どうか、赤岡の絵金屏風の修復・保存とそのための活動に、皆さまのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

赤岡絵金屏風保存会・絵金蔵運営委員会



土佐香美農業協同組合 赤岡支所
普通口座 0006101
赤岡絵金屏風保存会 会長 武市徹
(アカオカエキンピョウボソノカイ カイチョウ タケチトル)

定期購読できます！

蔵通信は定期購読可能です。ご希望の方は絵金蔵までお申し込み下さいませ。
◇ 年4回発行
◇ 1年分ごとに更新していただけます。
◇ 送料320円（お申込みの際、振込先をお知らせします。）

Tel/fax 0887-57-7117
Email ekingura@mxi.netwave.or.jp

【絵金蔵】

開館時間
午前9時～午後5時
(入館は午後4時半まで)
観覧料
大人500円、高校生300円
小・中学生150円
(15名以上の団体は各50円引き)
休館日
毎週月曜日
(月曜が祝日の場合は火曜)
12月29日～1月3日



幕末土佐の芝居絵師・金蔵(通称・絵金)。彼は土佐各地の祭礼に多くの芝居絵屏風を残しました。絵金蔵は、平成17年2月、赤岡の地に残る23点の芝居絵屏風を収蔵・保存するために作られた施設です。

絵金蔵の三つの使命

：年一度の文化を守るため
：絵金の文化を
：伝承の世代へ
：縁結び
：地域を超えて
：世代を超えて

平成22年度

絵金蔵指定管理者に決定しました。

絵金蔵は開館当初より多くのボランティアをはじめ、地域の方々、絵金に心を寄せて下さる全国の皆さまに支えられ、オープン以来5年間で約5万5千人の方にご来館いただきました。当蔵の運営は地域のまちづくり活動に関わるメンバーを中心に平成16年に発足した絵金蔵運営委員会が行って参りましたが、本年度、香南市より3度目となる指定を受け、さらに3年間絵金蔵の運営に当たらせていただくこととなりました。

まちの旦那衆が競うように注文した絵金の芝居絵屏風は幕末の動乱期を経て約150年間、このまちで祭礼文化とともに守られています。絵金蔵運営委員会はこれからもこの独自の文化を未来に繋ぐため、施設管理はもとより絵金の学術的な調査研究、またより良い作品保護と活用の仕組みづくりなどを地域の皆さまとともに考え、地域づくりに生かす試みを続けて参りたいと存じます。

今後ともどうかご指導、ご支援下さいますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

平成22年2月
絵金蔵運営委員会
会長 浜田義隆



絵金蔵運営委員会の歩み

- 平成 9 年～ 「絵金を核としたまちづくり支援事業」開始
- 平成 15 年 4 月 絵金蔵建設に向けて、住民参加のワークショップ開始
- 10 月 絵金蔵建設工事始まる
- 11 月 絵金蔵展示基本計画策定
- 4 月～ 絵金蔵の展示・運営体制についての話し合い
- 平成 16 年 10 月 絵金蔵完成
- 11 月 絵金蔵指定管理者募集
一町の直営の計画であったが、指定管理者を置くことに決定。まちづくりのワークショップを続けてきたメンバーを中心に「絵金蔵運営委員会」を発足、応募する。
- 12 月 「絵金蔵運営委員会」が指定管理者となる。
- 平成 17 年 2 月 絵金蔵オープン
- 平成 18 年 12 月 香南市より指定管理を受ける。(2 度目)
- 平成 21 年 12 月 香南市より指定管理を受ける。(3 度目)

絵金百話

第二十話 夫か、父か！

かまくらさんだいき みうらわかれ
鎌倉三代記 三浦別れ

< 概要 >

『鎌倉三代記』は安政10年（1781）3月、大坂夏の陣を題材とする人形浄瑠璃として江戸・肥前座で初演されました。作者は不明ですが、本作のもととなったと思われる、『近江源氏太平頭整飾』の写本『太平金兜鎧』に「作者近松半二、竹本三郎兵衛」とあり、これを双木千竹・吉田鬼眼が増補したのが本作と考えられています。

大坂夏の陣をテーマとする作品は、明和6年（1769）初演の『近江源氏先陣館』にはじまります。この作品は7歳で豊臣秀頼に嫁し、炎上する大阪城からただ一人落ち延びた悲劇の女性徳川千姫を時姫として登場させますが、翌年その続編として作られた『近江源氏太平頭整飾』は上演禁止となります。以後12年を経て改題され、徳川幕府をはばかって時代を鎌倉時代に転じた本作で、夫に従い、父に背く時姫像が定着しました。時姫役は將軍家の息女としての気品と、親と夫との間で激しく苦悩する演技が要求され、三姫の一つに数えられる大役です。ここでは徳川千姫を時姫に転じたほか、徳川家康が北条時政に、豊臣秀頼が源頼家、真田幸村が佐々木高綱に、木村重成が三浦之助義村として描かれています。通称「鎌三」と呼ばれるこの七段目「三浦別れの段（絹川村）」は今も歌舞伎や人形浄瑠璃で人気の演目です。

物語は北条時政と源頼家との合戦が舞台、頼家方の武将三浦之助義村は母の病の知らせを聞いて戦場から絹川村の閑居に駆けつけます。絹川村では三浦之助の老母に許嫁である敵方時政の娘、時姫が嫁として仕えています。戦場から戻ってきた三浦之助は敵の娘とは添えないと言い、自害しようとする時姫に時政を討てと命じます。愛する夫の言葉に苦悩の末父を討つ決意をした時姫は、この閑居に忍んでいた頼家方の軍師、佐々木高綱から計略の次第を聞かされ、夫と別れて父を討つべく戦場に向かうのでした。

絵金が描くこの物語は、中央に三浦之助と時姫をゆるぎない三角形の構図で大きく描いています。瀕死の三浦之助の青白い顔と、時姫の撫子を配した鮮やかな赤い着物がコントラストをなし、画面全体に若い二人の悲しみが満ち溢れているようです。戦乱のさなか、自らの生死を超えて義理と人情を尽くした登場人物たちの姿は、幕末の民衆たちの眼にどのように映ったのでしょうか。その姿に理想を胸に抱きながら次々と散っていった若き志士たちの姿を重ね合わせていたのかもしれない。

「今年も新高梨採れました」を祝う酒

まもなく解禁！

土佐の特産、新高梨の産地として知られる針木製組合公認の酒がまもなく高木酒造（香南市赤岡町）より発売されます。収穫されたばかりの「まろはりぬーぼー」は梨のさわめて出会ったりキユール「まろはりぬーぼー」は梨のさわやかな風味が楽しめる、これまでにない味わいです。新高梨の収穫に合わせ、十一月に正式発売予定。どうぞお楽しみに！

- 四月二十五日 土佐赤岡どうめ祭りにて特別価格限定販売（予定）。
- 七月第三土日 赤岡町絵金祭りにて試飲、特別価格限定販売。
- 九月 本格販売に向けての商品のご案内。予約受付開始。
- 十一月一日 発売開始。



パッケージデザイン：梅原デザイン事務所

高木酒造株式会社
高知県香南市赤岡町443
tel.0887(55)1800 fax.0887(55)2605
E-mail:takagi@toyonoume.com

絵金の時代

V 語りと仕掛け

江戸時代から戦前まで、全国の町や村の祭りで人気を誇った庶民の娯楽「のぞきからくり」。和紙を張った襖状の板に泥絵具を用いて物語を描き、蝶番で折りたたむ形は絵金の芝居絵屏風のスタイルによく似ています。今回は、新潟市巻郷土資料館所蔵の「のぞきからくり」とその上演の模様をご紹介します。



平成22年1～3月、新潟市巻郷土資料館で初公開された『八百屋お七』の中ネタ（覗き穴から見せる絵）の1枚。放火をしたお七が奉行の前に引き出される場面です。中ネタは物語を6、7枚の場面に分け、枠に和紙を張って下絵を描き、その上に押絵を施し、さらに背景を泥絵具で描いています。窓や障子などを切り抜いたり、着色した薄紙を張って線遠近法を深め、立体的に見せる工夫が見られます。

のぞきからくり「幽霊の継子いじめ」口上保存会会長をつとめる口上師・土田年代さん。からくりの絵を入れ替えながら、竹の拍子棒に合わせて語られる口上は、哀調を帯びた優しい響き。



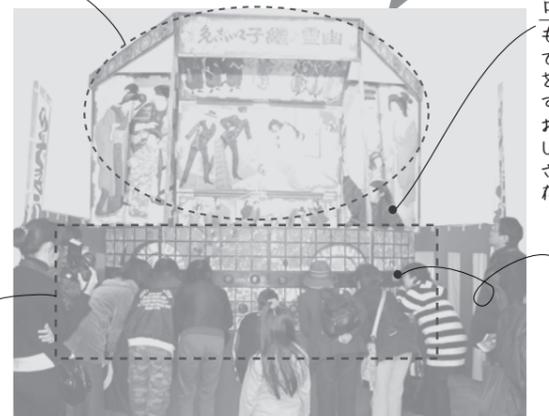
赤岡町横町二区所蔵の芝居絵屏風『八百屋お七 吉祥寺』（部分）。絵金も背景に線遠近法をよく用いています。



のぞきからくりの屋台をしまう箱。広げると高さ3mを超える屋台一式がほとんどこの中に納まります。この箱を載せた大八車を引いて村の祭礼を回りました。

のぞきからくり「幽霊の継子いじめ」

大正年間の製作と見られるのぞきからくり。昭和51年旧巻町の古寺家より発見、有志により修復され、同町在住で往年の名手と言われた内山ミヨ氏による公演が行われました。現在口上師として活躍する土田年代さんは、生前の内山さんに教えを受けています。平成21年3月には解体調査を実施、同年4月から7月にかけて再度修復が行われ今日に至っています。全国に現存する3台のうち最も保存状態がよく、華麗な押絵の中ネタ（覗き穴から見せる絵）ほか、一式がそろった大変貴重な民俗資料です。



口上師
もともとは左右二人で交代しながら口上を述べていたそうです。「はい！御用とお急ぎのある方も、しばしお立ち寄りくださいればこれ幸いかと存じます〜」

メドメ（のぞき穴）
上段は大人用、下段は子供用のぞき穴は楕円に家の中の継子いじめを目撃しているような気分。

看板絵
物語の名場面を描いた押し絵。中央の最も大きい画面がカンノンです。その名の通り観音開きになっていて、物語が終わると紐を引いて開き、剃髪しようとする継母の絵が現れる仕組み。

がう箱
泥絵具で鮮やかな紅葉が描かれています。

「のぞきからくり」とその歴史

「のぞきからくり」の源流は、

1. 17世紀に日本に到来したヨーロッパの「眼鏡絵」と「覗き眼鏡」（遠近法で描いた銅版画を凸レンズで覗くもの）
2. 同じく17世紀末に竹田からくり人形座の人形を模したものを覗き眼鏡で覗く「のぞきからくり」
3. 中世に発生した仏の教えや寺の縁起を絵に表して掛物に仕立て、それを物語風に解説し説教する「絵解き」

の三つに分けられます。18世紀末にはこれらのものが一体となり、社寺の縁日において芝居や伝記、実録などを題材に実演されました。その語り口調は歌祭文の流れにあるといわれ、地方によって様々な節がありました。明治に入ってから改良が加えられ、ガス灯等の普及により夜の興行も可能となつて、外題も勸善懲惡的なものから『不始婦』『金色夜叉』などの文芸物まで幅広く上演されるようになり、全国に広がります。しかし大正年間の活動写真の登場により、昭和10年頃を境として、戦後は完全に姿を消してしまいました。

【参考文献】
『巻郷土資料館資料目録No.10 のぞきからくり—その構造と機能—』巻郷土資料館 1988年1月
『巻町史 資料編6・民俗』巻郷 1992年3月

もうひとつの「大坂冬の陣」

近江源氏先陣館

『近江源氏先陣館』は明和六年（一七六九）、大坂・竹本座にて人形浄瑠璃として初演され、翌年歌舞伎に移入されました。今回とりあげた『鎌倉三代記』はこの『近江源氏』の続編に当たり、同作の筋を踏まえた言葉が随所に出てきます。例えば初段には佐々木盛綱の一子小三郎が父の仇討ちに現れますが、これは『近江源氏』の第八段「盛綱陣屋」から続く場面で、弟高綱の苦衷を察した盛綱が高綱の贖首を見逃し、その責めを負い自害するに至ったことを受けているのです。二つの作品を知ることで、歴史上の人物と彼らにまつわる俗説などがより人間味を帯びたドラマとして壮大に繰り広げられる、時代物の醍醐味を味わうことができます。

「盛綱陣屋」は『近江源氏』の最も有名な場面で、今日も歌舞伎や人形浄瑠璃で度々上演されています。県下に伝わる芝居絵もこの「盛綱陣屋」を描いたものがほとんどです。この場面では源頼家方の軍師佐々木高綱が北条時政に自分が死んだと思わせる計略からわざと一子小四郎を北条方に生け捕らせ、時政の臣・盛綱は弟高綱の面目を立たせるため母の微妙に小四郎殺害を頼み、そこに高綱戦死の報が入ります。

時政の命で弟の首を実検した盛綱は、すぐ贖首と知りますが、計略通り父の後を追うと見せて切腹した小四郎のけなげさに感じ、高綱の首に相違ないと言上する、幼い子の父への愛と忠義を中心にした場面です。

この物語は土佐独特の横幟の形で赤岡町に伝えられています。横幟は長いもので幅七メートル近くあり、周囲に乳棒や紐を通すための環状の突起（が一定の幅で取り付けられた、文字通り横に長い幟の形をしています。素材が紙であることから、おそらく室内において節句や祝い事などが集まる折りに部屋にめぐらせ、飾ったのでしよう。中央には絵金が詠んだと伝える俳句「菖蒲打、まさりおとりもなかりけり 友竹」が記されています。五月の節句に子供が菖蒲の葉を編んで地面を叩き合い、切れた方を負けとする菖蒲打ち。いとこ同士で争わねばならなかった、作中の佐々木小三郎と小四郎へのメッセージのようにも受け取れます。



近江源氏先陣館 盛綱陣屋 横幟 / 紙本着色 / 132.8×276.9 cm / 香南市赤岡町原家所蔵
時政によって人質にとられた高綱の息子小四郎。忍び込んできた祖母微妙は高綱のために小四郎を自害させようとするが、助命を懇願して逃げ惑う。



近江源氏先陣館 盛綱陣屋 二曲一雙屏風 / 紙本着色 / 134.0×136.2 cm
高知市・春野町諸木八幡宮中組蔵中

父の面目を守るため切腹を遂げた後の小四郎にすがり、泣く祖母微妙たち。



近江源氏先陣館 盛綱陣屋 二曲一雙屏風 / 紙本着色 / 130.4×115.2 cm
高知市・浦戸東町町内会

上段横幟の場面の続き。高綱の首を実検しようと盛綱が首桶を引き開けたところで、切腹を遂げた小四郎。これまで命乞いをしていたのは最期に父に会うためと言い、贖首と知りながら父を守るため犠牲となる。

首桶蒲草 入道り繁らり友竹

絵金を読む。

鎌倉三代記 三浦別れ

二曲一隻屏風/紙本著色/182.0×169.0cm
赤岡町本町一区所蔵

— あらすじ —

源頼家と北条時政との戦いの最中、頼家側の若武者三浦之助の母・長門は絹川村の閑居で病に伏せている。そこへ死を覚悟した三浦之助が暇乞いに訪れ、瀕死の状態でも門口に倒れ込む。かねてより三浦之助に想いを寄せ、北条家を出奔して長門の看病をしていた時政の娘・時姫の介抱により意識を取り戻した三浦之助は母に会おうとするが気丈な長門は拒む。母の言葉に従い三浦之助は再び戦場に出向こうとする。時姫はその前に夫婦の固めをしたいと言ひ、なおも出陣しようとする三浦之助に母を看取ってからも遅くはないと閑居にとどめる。

そこへ時政の命を受けた女房二人と富田六郎が時姫を連れ戻しに現れる。さらに、時政によって時姫を鎌倉に連れ帰れば妻に与えると命を受けた百姓・安達藤三郎が時姫に付きまとう。父の仕打ちに絶望し、自害しようとする時姫を三浦之助が止め、自分のために父・時政を討つよう迫る。父への恩と夫への愛の狭間で苦しみながらも、時姫は父を討つ決心をする。

そこへ安達藤三郎、実は源頼家側の軍師・佐々木高綱が現れ、三浦之助との謀で自分が藤三郎になりすまし、時政に近づいたことを明かす。三浦之助は戦場に戻り、時姫は高綱と共に時政を討つべく戦場に向かう。

■ 此蚊帳の内は母が城郭、破らるゝなら破って見よ。

母を気遣い、戦いの最中に帰ってきた息子を退ける長門。主人に忠義を尽くし、親ありと思うなど言い聞かせたはずと言ひ気丈に振る舞いますが、障子の向こうで泣き声を上げています。この後、息子の未練を断つため、また時姫に敵の母である自分を討つて父への面目を立たせるために、姫が小手調べに出した槍で自らを突き、自害し果てるのでした。

■ 思いきって討ちませう。と様赦して下さりませ。

苦渋の決意を迫られ、わっと泣き叫ぶ時姫。しかしこの後、三浦之助と高綱が冥途で再会しようとしてこり笑い合うのを見て、「親を捨命を捨、主に従ふは弓取の道、夫に従ふは女の操。不孝の罰の当たれば当たれ。夫故には幾奈落の責苦をうくとも厭ふまじ。」と決意を固めます。



■ 兼ねて覚えし忍の術。

夜更けに井戸からぬっと現れた富田六郎。そばの二人は北条家より遣わされた女房・讃岐の局と阿波の局。時姫の迷いとなる長門を殺し、無理にでも連れ帰ろうと隙をうかがうところ、同じく時政に命ぜられた富田六郎が村の外より屋敷の井戸に抜け穴を掘り、忍の術で現れたところに出くわしました。六郎は二人に村外れで首尾を待てと伝えますが、この後井戸に忍び込んだ安達藤三郎に槍で殺されてしまいます。

物語る小道具 ～兜～

討死覚悟の三浦之助は、兜を二度とかぶらぬいで紐の余りを切り、内には香をたぎめていました。三浦之助のモデルとなった木村重成は若江で戦死した際天下の名香蘭着侍をたいていたと言ひます。時姫も兜の様子から、三浦之助の覚悟を察したのです。

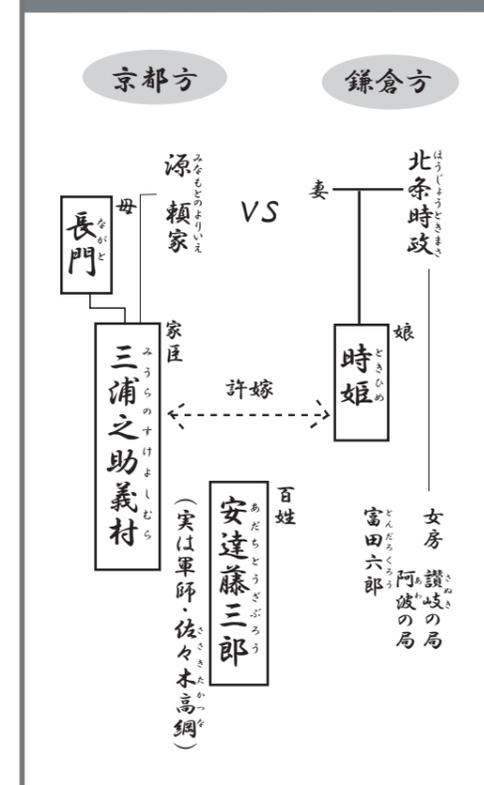
■ 誠三浦が女房ならば、夫が頼む一大事、違背はあらじ。

時姫の自害を止め、夫の敵を討つ気はないかと持ちかける瀕死の三浦之助。驚く姫になおも、得心すればあの世まで誠の夫婦になろう、親を取るか、夫を取るかと決意を迫ります。自分を心から愛する姫に、死よりも残酷な決意を迫る、敵への凄まじい執念です。



頼むといふは是一つ。得心なれば未来は愚、
五百生まで誠の夫婦。いやなれば此座切、
親に付か、夫に付か、落付道はたった二つ、
サア返答いかに、思案いかに…*1。

鎌倉三代記 三浦別れ 主要登場人物



【参考文献】
*1『浄瑠璃集 下』日本古典文学大系52 岩波書店 1967年10月
*2『歌舞伎登場人物事典』白水社 2006年5月
*3『絵金展 土佐の芝居絵と絵師金蔵』高知県立美術館 1996年
*4『絵金蔵収蔵品目録』改訂版 香南市 2010年3月
*5近森敏夫『絵金読本』改訂版 香南市商工水産課 2006年3月